

是 日 尼 御 書

弘安元年四月一二日 五七歳

□^{佐渡}さどの国より此の甲州まで入道の来たりしかば、あら^{不思議}ふしぎやと^思をもひしに、
又今年来てな^菜つみ、水くみ、た^薪きごり、だ^檀ん王の阿志^{あし}仙人^{せん}につかへしがごとくして一
月に及びぬる不思議^筆さよ。ふ^筆でをもちてつくしがたし。これひとへに又尼^行ぎみの御^合功德
なるべし。又御本尊一^筆ぶくかきてまいらせ候。靈山浄土にてはかならずかならずゆきあ
ひたてまつるべし。恐々謹言。

卯月十二日

日 蓮 花 押

尼 是 日